



旭岳DEケースストーリーパート2
(2018年4月~2019年6月)

旭岳DEチーム

旭岳DEケースストーリーパート2 目次

1) 旭岳DEケースストーリーパート2 の位置付け

- 旭岳とは？
- DEケースストーリーとは？
- パート1
- パート2

2) 旭岳DEパート2 のプロセス

- 評価可能性からサクセスイメージまで
- 評価目的・評価設問の策定に向けて
- 監視員活動を評価対象に
- データ収集・分析
- 評価まとめ・報告

おわりにと今後

参考

- 1) 成果物：評価レポート
- 2) 監視員活動のアウトプット
- 3) 監視員活動のアンケート・インタビュー結果
- 4) DEパート2 活動記録

旭岳DEケースストーリーの位置づけ

旭岳とは？

伴走・評価対象団体：NPO法人大雪山自然学校
(北海道上川郡東川町：町内から大雪山旭岳の頂きをのぞむ)

利用者による環境保全の仕組みづくり

大雪山国立公園・旭岳エリアを活動の拠点とし、NPO法人ねおすの東川支店として2001年に設立。法人解散に伴い、2015年にNPO法人大雪山自然学校として独立。

子供から大人までの幅広い層を対象に、環境保全と人材育成に関する事業を行い、身近なところからの実践活動や人と自然の豊かな出会いをつくり、大雪山周辺の自然環境の保全・再生するとともに、持続可能なまちづくりの実現に寄与することを目的としている。

① 環境保全活動

大雪山国立公園旭岳周辺での環境保全活動や外来生物防除、森づくり活動など



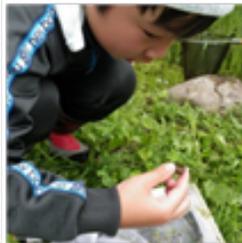
③ 地域に根差した交流推進活動

大雪山をフィールドにしたエコツアーガイドやキトウシ森林公園での健康プログラム



② 子供自然体験活動

小学生を対象に月に1回実施する自然体験プログラムや長期休暇中のキャンプなど



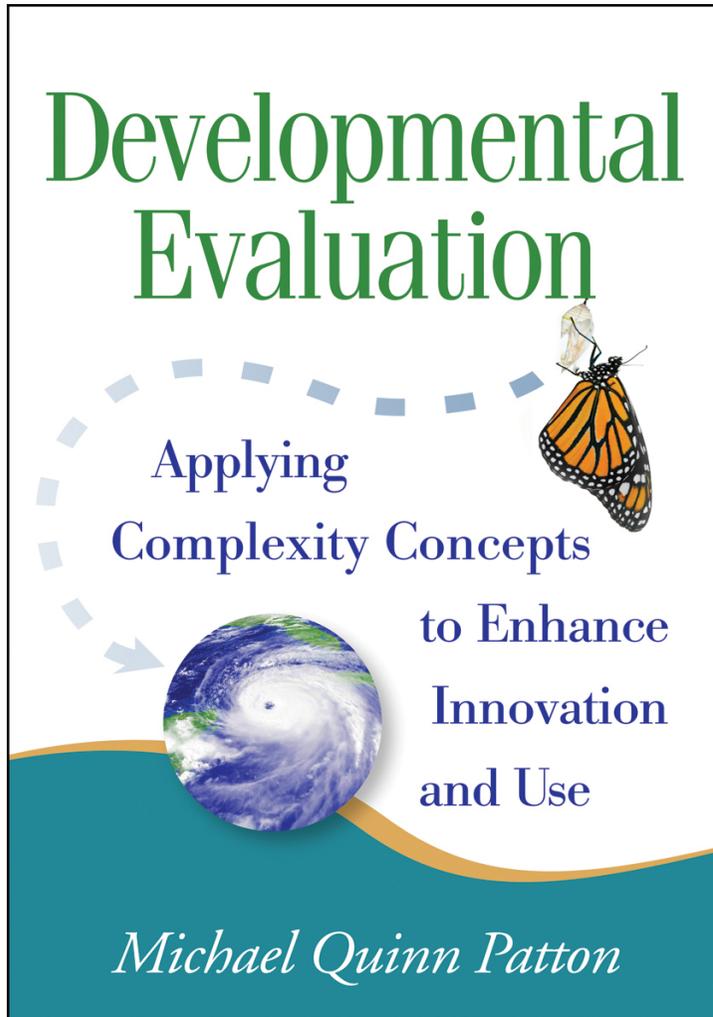
④ 人材育成活動

自然案内人の養成講座や大学実習・研修生・インターンシップの受け入れなど



旭岳DEケースストーリーの位置づけ

DE ケースストーリー とは？



発展的評価
(Developmental Evaluation: DE)。
CSOネットワークでは、DEの考案者であるマイケル・クイン・パットン氏を総括アドバイザー、ケイト・マッケグ氏をトレーナーとして、DEのアプローチによる「伴走評価エキスパート育成のための研修事業」を、2017-18年度の2年間実施した。

「伴走評価エキスパート育成のための研修事業」の一環で、1年目（2017年度）は研修参加者がそれぞれ伴走・評価するケース（事例）づくりを、2年目は参加者のケースづくりに加え、事業全体として2件のケースづくりを試みた。

旭岳DEケースストーリーの位置づけ

パート1
(2017年8月
～2018年3月)

2017年1月より、Panasonic NPOサポートファンド組織基盤強化助成プログラムにより、佐藤綾乃（NPO運営サポート・あの屋）が伴走支援者として関与。2017年5月まで組織診断を実施。つづいて、「伴走評価エキスパート育成のための研修事業」参加者として、大雪山自然学校をケース（事例）として取り上げる。

組織診断を経て、共有された課題

「利用者による環境保全」の真意が、“山の利用者・受益者”である、地域の人々・企業、関係者、大雪山を訪れる人々に伝わっていない。団体そのものの認知と、活動に対する幅広い支持・支援が得られていない。

関わる人が増えないと
“現状維持”できない！

広報強化・支援者拡大のための
ファンドレイジング戦略づくり
についての評価設問作成

大雪山自然学校 Evaluation Question!

山の「受益者」「利用者」を巻き込むファンドレイジング戦略

Q1 団体のどくらい、地域にどのように理解されているのか？
・NPOだと知らない
→ 地域での「ポジティブ」明確化
・活動に対する支持、実態に不足する事業
→ ニーズに応える仕組みか

Q2 活動に参加する人のニーズはどうか？
・年間延べ200人のボランティア
・自主事業への参加者
→ きっかけ、満足度、変化、参加度、キャリアサポート等の機会

Q3 山の「利用者」「受益者」としての意識が十分にあるのか？
・ミッションの真意をどのように伝えるか？
→ 課題感の共有、発信方法

Q4 「何をしたいか」「何をしたいか」を判別する基準はなにか？
・本業の「振り返り」の時期、見出しの基準
→ 「何か成功か」を尋ね、そのための変更を「おもしろい」に

寄付営業先企業（「営業アポイント」）ヒアリング
・事業に参加したことがある 参加者アンケート
・地元の人（子ども、保護者、大人）担当者所見
・事業委託元、資金提供者 事業報告書の記載内容
・ボランティア参加者 ヒアリング、アンケート 他社！
・派遣協力団体 参加前後の意識の変化、その後の活動や生活の変化 → ストーリー
・プログラム参加者
・監視員チーム、プログラム担当者 所見 1A-300!
・これまでの活動における「参加」の成功事例、失敗事例
「参加」を得たことでの相乗効果 活動記録まとめ
・他地域での事例 他団体関係へのヒアリング 誘発!
・活動に関わる人、支援する人たちの「なぜ？」を明確にする → ストーリー
・300万円の寄付獲得 2018年度の目標値
・400人以上のボランティア
・30ヶ所以上登山道整備
・スタッフの過半数継続雇用3人以上
・みんな生き生きと仕事 developmental!

「何をしたいか」「何をしたいか」を判別する基準はなにか？
・「何をしたいか」を尋ね、そのための変更を「おもしろい」に

「何をしたいか」「何をしたいか」を判別する基準はなにか？
・「何をしたいか」を尋ね、そのための変更を「おもしろい」に

旭岳DEケースストーリーの位置づけ

パート2
(2018年4月
～2019年6月)

2018年度、事業全体のケース（事例）づくりとして、2017年度の参加者による伴走・評価ケースより、2件（大雪山自然学校、しんせい）を取り上げる。大雪山自然学校の伴走・評価のチーム（旭岳DEチーム）の構成員は以下。

中谷美南子*（-2018.6まで）、今田克司*、佐藤綾乃#、中西希恵#、落合千華#（-2018.6まで）、河合将生#（2018.9-より）

*事業スタッフ

#2017年度研修事業参加者



旭岳DEパート2のプロセス

評価可能性からサクセスイメージまで（1）

まず、DEの対象としてふさわしいかを検討するため、評価可能性チェックを行った。
(2018年4月)



ふさわしい。ではDE
やっていきましょう。

チェック項目	イエス
外部環境の変化が著しいか	✓
外部環境に対して団体として適応していく必要性を感じているか。	✓
よりよい社会のために「新しい仕組みを生み出し、変化を引き起こすため」実施しているという認識をもっているか。	✓
意思決定のために、データ収集・分析・活用を行っているか。あるいは活用していきたいか。	✓
評価を組織・事業運営に活用していきたいか。評価を通じて成し遂げたいことがあるか。	✓
発展的評価事例構築のために、団体のリソース（職員の時間と労力、受益者・関係者の調査協力、等）を割くことはできるか。	✓

旭岳DEパート2のプロセス

評価可能性からサクセスイメージまで（2）

ではDEやっていきましょ。

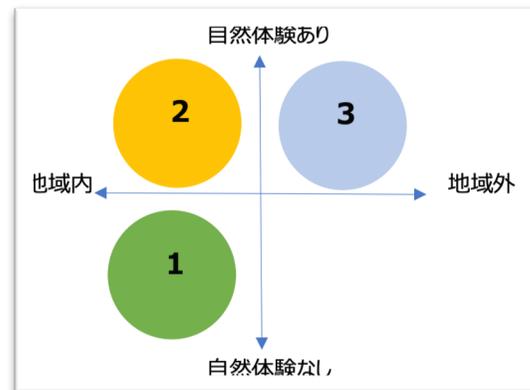


第1回現地調査
(2018年6月
13日～14日)

団体の活動と対象の洗い出しを行なった。

わかったこと：

- 「利用者による環境保全の仕組み」づくりが団体のミッション。大雪山の「利用者」を登山者など直接利用者に限定せず、「旭川市と周辺八町の住民全員」を「利用者」と位置付けていることがユニークな点。
- 団体としての、社会的課題解決のセオリーオブチェンジ（社会的課題解決の道筋の仮説）が十分可視化・共有できておらず、そのため既存の活動とミッションのアラインメントがとれていない。
- 団体の既存の活動は、狭義の「利用者」を対象にした自然体験プログラム（エコツーリズム、姿見池エリアでの環境保全活動とビジターへの啓発など）が多く、地域外からの観光客を対象しているものが多い。
- 団体のミッションを遂行するには、地域内の、自然体験プログラムなどを特に体験していない人（登山者ではない人）をいかに「利用者」と意識させ、変化させることが必要。
- 団体がターゲットとすべき「利用者」を次の3領域に分けて、特に領域1、2の人を対象にすることを考える材料として、DEが活用できないか？



領域1：ミッション達成のために本来ターゲットすべき対象（だが既存の活動はない）

領域2：現在活動が現在でも行われており、今後拡大拡大されるべき対象（キトキト、イエティ、学生ボランティア受け入れ）

領域3：主に収益をあげるために、選んで実施すべき対象（既存の活動はここに集中している）

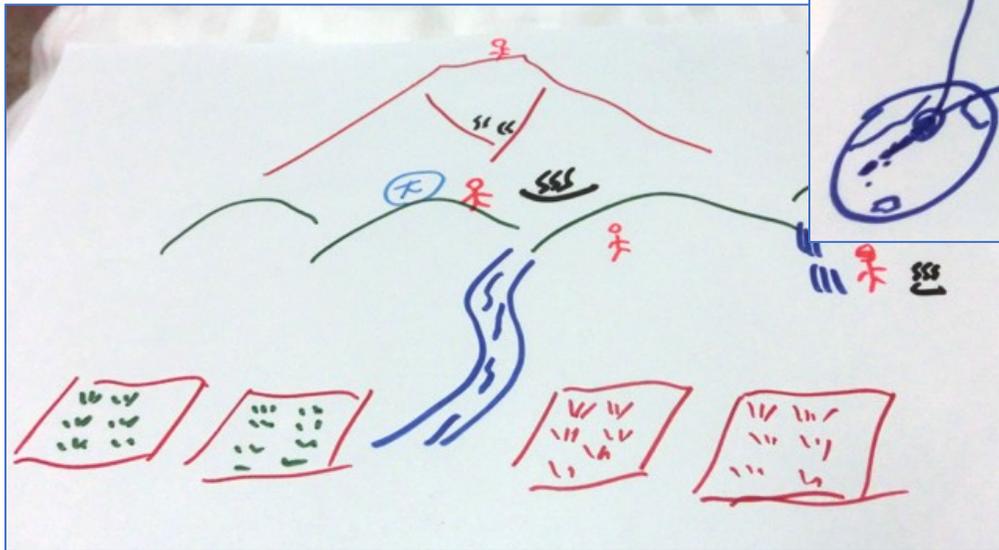
旭岳DEパート2のプロセス

評価可能性からサクセスイメージまで（3）



第2回現地調査（2018年
8月31日～9月1日）

「地域の強み」と大雪山自然学校の役割。この団体が成功したらのイメージ化。。



8/31-9/1 第2回現地調査



旭岳DEパート2のプロセス

評価目的・評価設問の策定に向けて（1）



「評価目的」：この評価でなにを知りたいのか？

「評価設問」：評価目的を果たすために答えが必要な問いは何か？

これらを設定するために行きつ戻りつ

今田東川町訪問
荒井代表インタビュー、町の人声を拾う

「What 旭岳」（自然学校の事業に関連しそうな事項を共有するメッセージスレッド）をスタート

【旭岳情報①】



旭岳DEパート2のプロセス

評価目的・評価設問の策定に向けて（2）

9/22時点（案1～3まで）

案1：

評価目的：

地域内の登山者・自然体験プログラム等既参加者ではない人々を、いかに「利用者」と意識させ、大雪山自然学校の活動に巻き込むことが出来るかを明らかにする。

評価設問：

1. 彼ら（上記下線の人々）にとっての大雪山自然学校の価値、生み出してきた変化は何か。
2. 大雪山自然学校の価値、生み出してきた変化を、彼らへ的確に伝えられる方法は何か。
3. 彼らが大雪山自然学校の価値、生み出してきた変化を理解し、行動に移すためには何が必要か。
4. 地域外から来るボランティア事業の現状と成果は、どのようにまとめることができるか。それをモデルに、いかに域内（東川、旭川）の人を対象とした事業を開発できるか。

10/5時点で以下のようにまとめ

評価目的

大雪山自然学校が「100年後も変わらない、大雪山のためにできること」を明確にするために、登山者・自然体験プログラム等参加者以外を含めた、地域住民の広く多様な層からの支持を得られる組織へと成長するために、これまでの活動による効果・効用・期待値や、すでに持つ要素や強みを明らかにする。

評価設問を

- EQは評価設問（評価者として結果を出さないといけないこと）、
- LQは、学びの設問（評価者として分かっておかないといけないこと）

に整理。

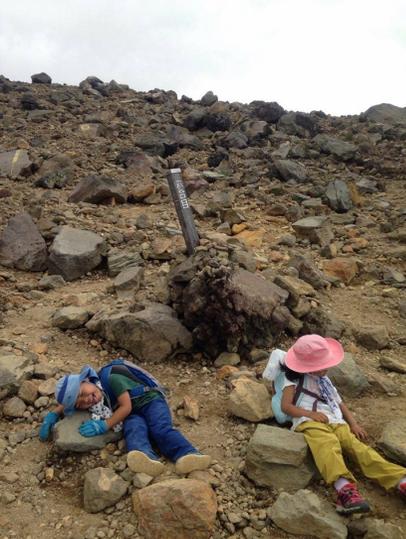
旭岳DEパート2のプロセス

評価目的・評価設問の策定に向けて（3）

評価目的はよくできた！

しかし、2018年度完了させるには目的が大きすぎる。。

もっと絞り込むべし！



旭岳DEパート2のプロセス

監視員活動を評価対象に

A-ha!モーメント

「そうか、監視員活動から評価しよう！」



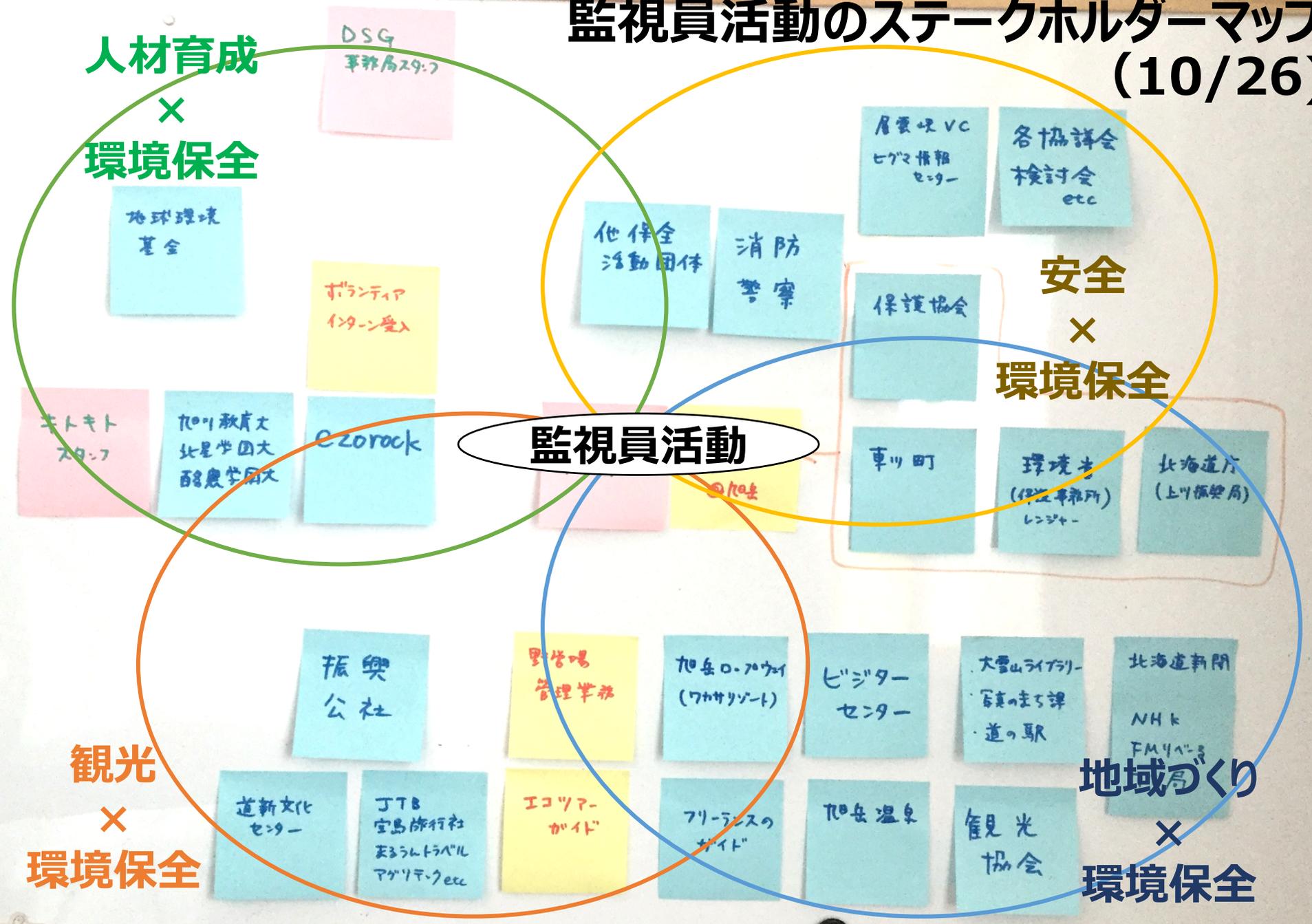
なぜか？

- ① 設立時より行われている活動の内、多様な世代・立場・関係機関との関わりがある重要な活動。
- ② 監視員事業の環境保全活動における成果のみならず、東川町や周辺地域にとっての「旭岳」の存在の大きさや監視員事業に携わる人ひとりひとりの思いは、各事業や関係者へ波及している。
しかしながら、あまりにもその価値が知られていないのではないか！？

※監視員活動とは？ 東川町大雪山国立公園保護協会から自然保護対策事業を受託し、旭岳エリアにおいて、旭岳自然保護監視員として環境保全活動を実施。



監視員活動のステークホルダーマップ^o (10/26)

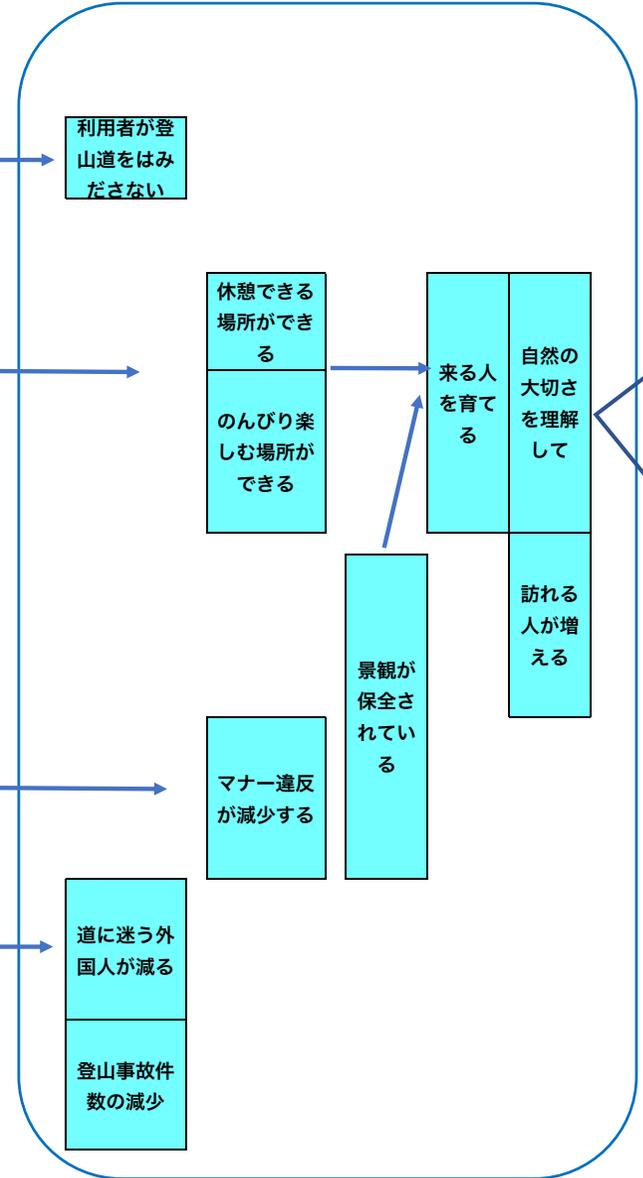
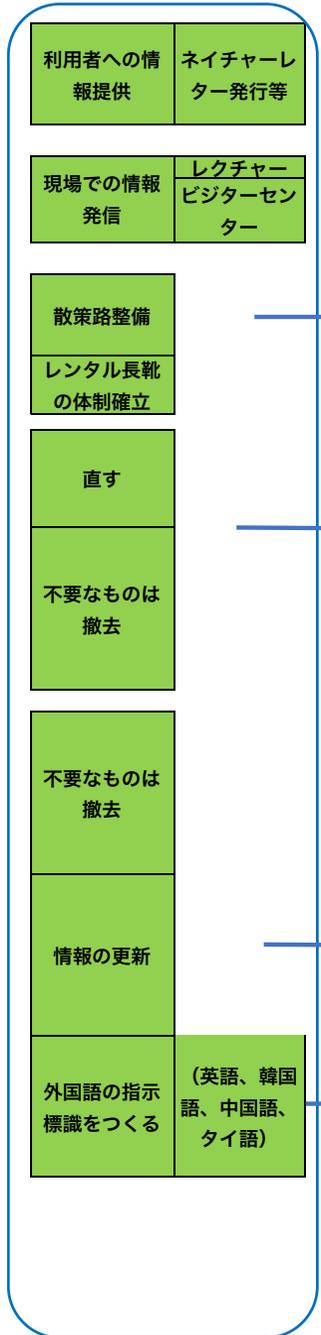
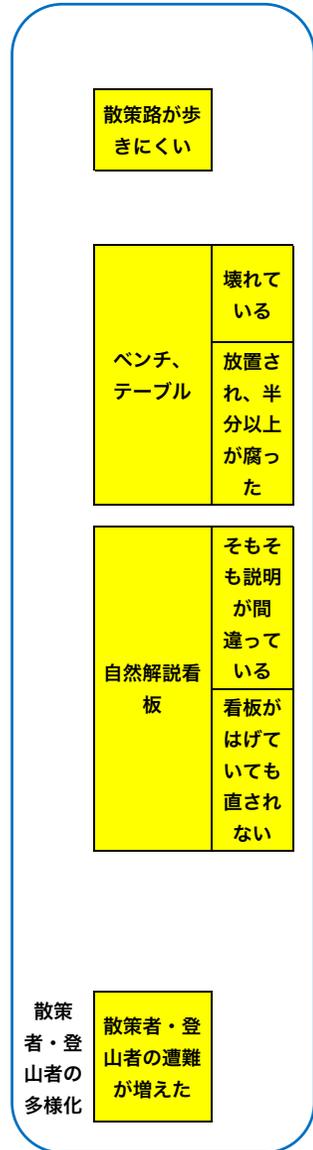


監視員活動のセオリーオブチェンジ (11/15ワークショップ)

活動内容

結果・成果

状況の変化



「自然の大切さを理解して訪れる人が増える」が活動の最終アウトカム

旭岳DEパート2のプロセス

監視員活動を評価対象に 評価設問を再設定

評価設問

大雪山自然学校のさまざまな活動のなかで、旭岳自然保護監視員活動にフォーカスし、

1. LQ 監視員活動がもたらした変化にはどのようなものがあるのか
(具体的なアウトプットやアンケート・インタビュー調査から捕捉する)
2. EQ 中間アウトカムとして位置付けられる「来る人を育てる」「場所の問題や特徴を理解して／自然の大切さを理解して訪れる人を増やす」に、監視員活動はどの程度・いかに貢献しているのか

- ・EQ は評価設問 (評価者として結果を出さないといけないこと)
- ・LQは、学びの設問 (評価者として分かっておかないといけないこと)

旭岳DEパート2のプロセス

データ収集・分析

2018年12月～ 2019年1月

- 監視員活動について、「自然保護対策事業委託業務報告書」などから事実関係の整理
 - 旭岳ロープウェイ駅舎におけるカウンター業務
 - 長靴利用者の推移
 - 携帯トイレ購入者の推移
 - 旭岳協力金の推移
- ネイチャーレターやSNS・ブログから情報発信の実績を検証
(以上については文末「参考2：監視員活動のアウトプット」参照)

- 現職及び元監視員のリストアップ、インタビュー対象者の選定
- 現職及び元監視員を対象にした「旭岳自然保護監視員活動に関するヒアリング」の協力依頼とアンケート項目の検討
- 現職及び元監視員を対象にアンケートを実施
(googleフォーム・URLを配信：対象は61人で、回答は31人。)
- 現職及び元監視員を対象にインタビューを実施 (合計13人)
 - 12月に個別インタビュー開始
 - 自然学校へのチーム訪問 (12月、第3回) の際、ミーティングに加え、個別インタビュー。
 - 1月になってからのフォローアップインタビュー。(以上については文末「参考3：監視員活動のアンケート・インタビュー結果」参照)

旭岳DEパート2のプロセス

評価まとめ・報告

2019年2月4日の大雪山自然学校理事会で報告

旭岳自然保護監視員活動の 価値の見える化に向けて

2019年2月

大雪山自然学校

CSOネットワーク発展的評価事例作成旭岳チーム

「監視員活動をサステイナブルなものにするために」理事会への提言

- ・ 対外的に伝えていくべきこと
- ・ 関係諸機関への提案
- ・ データ収集、継続的評価の方策の提案

理事会での協議事項

監視員活動をサステイナブルなものにするために
(成功の姿)

「100年後も変わらない大雪山」のためにできること
利用者による環境保全活動を促進するためにすべきこと



これらの問いに対する団体としての答えを、今回の理事会を
きっかけに継続的に深め、理事会の総意としての
「成功の姿」を思い描き、言語化・図示してはどうか？

おわりにと今後

- 以上で旭岳DEケースストーリーパート2は終了となったが、設定した評価目的は大きいもので、そのための評価活動はまだ始まったばかり。
- 成果物「評価レポート」を理事会として活用し、監視員活動の価値の普及を進めていてもらいたい。
- 理事会に提案した評価活動の継続も検討してほしい。
- 大雪山自然学校とは、評価活動の継続に関し、今後も協議していく予定。

今回、私たちの伴走・評価活動を快く受け入れてくださった大雪山自然学校の理事・スタッフの方々、特に代表理事の荒井一洋さん、理事・スタッフの木村恵巳さん、小沼秀樹さんに深くお礼を申し上げたい。

旭岳DEチーム一同

100年後も変わらない 大雪山のためにできること

大雪山自然学校 × CSOネットワーク
(発展的評価事例作成旭岳チーム)

『旭岳自然保護監視員活動の価値の見える化に向けて』評価レポート

Asahidake Nature Keeper

旭岳自然保護監視員活動とは

東川町大雪山国立公園保護協会からの受託業務として、2003年から実施しています。毎年5月中旬～11月中旬にスタッフ及び学生等のボランティアを配置し、主に旭岳姿見の池園地周辺域において活動しています。



東川町大雪山国立公園保護協会とは？

東川町、北海道、森林管理署、自然保護官事務所、町観光協会、山岳会、中学校、民間事業者などにより構成。

監視員活動は、大雪山自然学校の前身であるNPO法人ねおすの東川支部が受託する2002年以前は、東川町が実施していた。



具体的な活動内容

- ・登山道・散策路の整備（補修、ロープ張りなど）
 - ・巡回（来訪者の安全確保、清掃など）
 - ・ロープウェイ駅舎での業務
（3分レクチャー、カウンター業務、長靴のレンタルなど）
 - ・情報発信（ネイチャーレター発行、ブログ・SNS更新）
 - ・協力金の呼びかけ
 - ・ボランティア・インターンの受け入れ
 - ・様々な外郭団体のキャンペーンへの活動協力
（山のトイレ、セイヨウオオマルハナバチのチェック、遭難対策など）
- 外来種防除に関する現場の意識は高いが具体的な活動はあまりできていない

業務対象区域・主な活動範囲

大雪山国立公園内東川町の行政区域とし、旭岳姿見の池園地・旭岳温泉街・天人峡温泉街の登山道、道道、自然探勝路及び公共施設

大雪山自然学校の様々な活動の中で、

なぜ**旭岳自然保護監視員活動**にフォーカスするのか？ ～評価チーム現地調査を経て～

設立時より行われている活動の内、多様な世代・立場・機関との関わりがある重要な活動であり、旭岳の環境保全活動における成果のみならず、東川町や周辺地域にとっての「旭岳」の存在の大きさや監視員事業に携わる人ひとりひとりの思いは、各事業や関係者へ波及している。

しかしながら、あまりにもその「価値」が知られていないのではないだろうか？

評価チーム・これまでの経過

2017年度よりCSOネットワーク主催による発展的評価研修事業の一環で、大雪山自然学校での事業評価を検討・実践を開始。2018年度よりチームとしての伴走評価を開始し、6月～2019年2月までに複数回の現地調査・関係者ヒアリング、監視員スタッフ等を対象としたアンケート調査を実施しました。

【参考1】成果物：評価レポート (ページ1)

旭岳自然保護
監視員活動に
注目！

評価チームが
監視員活動に
着目した経緯。

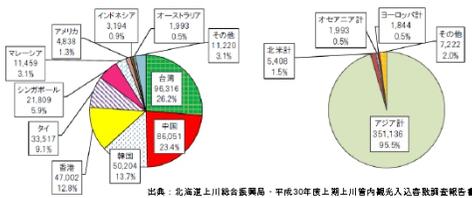
旭岳 & 監視員活動をめぐる近年の変化

外国人訪問者の質の変化

比較的環境などに対する意識があり、英語対応可能なヨーロッパ系登山客から、環境保全に関するオリエンテーションが必要であったり、言語対応が難しい場合もあるアジア系観光客の増加。



平成30年度上期 上川管内訪日外国人宿泊者・国(地域)別構成比



生態系の変化

特にカラスの増加が顕著。レクチャー時の呼び掛け、注意掲示、カラス監視などの業務が増加。

監視員活動希望者の減少による業務負担の増加

現場スタッフの確保が十分にできず、ボランティア受入体制にも影響
(ボランティア述べ人数：2017年179名→2018年134名に)

登山道維持管理に関する情報交換や連携強化の試み

登山道関係者による情報交換会(2012年～)、総合型協議会の構築(大雪山国立公園連絡協議会の拡充)の検討(2017年～)、大雪山国立公園における登山道整備技術指針(2016年改定)同指針運用・活用ワーキンググループ(2018年～)

【参考1】成果物：評価レポート (ページ2)

近年の外的状況の変化に注目



監視員活動では何を行っているのか?

月	2016年	2017年	2018年
6月前半	338,400	263,700	411,600
6月後半	265,800	545,400	479,100
7月前半	49,200	208,200	118,500
7月後半	46,500	46,500	38,100
8月前半	18,200	22,800	38,100
8月後半	34,500	30,900	47,100
9月前半	38,400	25,800	4,800
9月後半	62,700	102,300	34,500
10月前半	252,300	389,100	37,800
10月後半	120,600	170,800	117,300
計	1,224,600	1,805,600	1,326,600



6月と10月の利用者が最も多く、降雪量によってレンタル利用者は増減する。

2017年から「山のトイレを考える」と連携し啓発キャンペーンを開始。

外国人訪問者の増加により、日本語での協力金呼び掛けが伝わっていない?

主にロープウェイ利用者に対して行う「3分レクチャー」は、国立公園のマナー、散策路の所要時間と状況・通行制限案内、自然解説、トイレや入山届についての説明を行っている。学生ボランティアが担うことも多く、「伝え方」の工夫や接客業務の経験を積む機会にもなっている。

駅舎カウンターでは、問い合わせ・事故対応に加えて、長靴のレンタル、携帯トイレの販売・利用促進、協力金(寄付)の呼び掛けも行っている。

長靴のレンタルは、水たまりを避けるために登山道を外れる歩行者を減らし、植生や登山道の保護につながる。また、排泄物の散乱は旭岳のみならず大雪山系全体の問題となっており、携帯トイレの活用による解決を目指している。協力金は保護協会に納入され維持運営費に充当されるが、国立公園管理における「利用者負担」の意識付けのためにも必要な取り組みである。

登山道の整備・設備の補修は、過去に実施してきた60か所以上の経過観察と再補修を続けており、毎日更新されるブログ・SNS、週刊のネイチャーレター等の情報発信と同様、日々現地の様子を見つけている監視員だからこそ可能な活動と言える。

長靴レンタル、携帯トイレ販売、協力金の推移や、その効果について分析。



【参考1】成果物：評価レポート (ページ3)

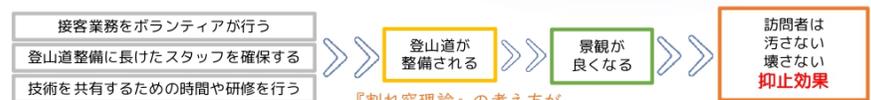
監視員活動により何が可能になっているのか？

▷できるだけ事前に情報提供すれば、汚さない・壊さない



山に訪れる人々が、主体性は無くとも、自然保護活動を実践できるようなマインドを育てる

▷きれいであれば汚さない・壊さない



『割れ窓理論』の考え方が、旭岳の景観保全にも適用されている

▷関わった人の意識、ライフスタイル、キャリアステップの変化がおこる

自然や動植物・昆虫に対する思考の変化 → “守る”“保護する”ではなく、**自然と共生するという意識**
 キャリアステップにおいて → 自身の得意分野を見つけ、それを伸ばすことができる。
多様な主体とつながりができる。



現場の生きた情報を得、失われていくもの、自然のサイクル、ちょっとしたことでなくなる自然を感じることでできた活動。現場リアルを伝えることができるのは監視員しかいない。監視員活動で得た感覚やスキル、事業運営のノウハウは、確実に今の仕事につながっている。
 ことを伝える人 高野克也さん (2009~2011年度 現・札幌まるやま自然学校プログラムディレクター)

そこにいることで、利用者の「大切な場所」という気持ちを高める人

山などは好きだったが、特に植物に詳しいわけではない自分の人生が変わった。
 高山植物の勉強や登山道を歩くことを仕事にできるのは幸せだったし、他のガイドや行政の人たちとつながりができ、次のステップにつながる場所。
 高橋可翔さん (2016~2017年度 現・東川エコツーリズム推進協議会)

山が大好きで、それぞれ個々の能力を最大限に伸ばし、楽しく働いている人

監視員って、どんな人？

自然を“守る”“保護する”ではなく、「自然と共生するという基礎」を感じられる活動。旬の情報を発信するネイチャーレターや監視員活動日誌、定点観察など豊富な情報と個々に蓄積した経験を活かし、やりたいこと＝活動に。
 山口ちえさん (2006~2013年度 現・東川町海外誘客推進本部コーディネーター)

“適切な”利用と保全がどういふものか、それに必要なもの/不足しているもの考える人
 登山道整備などの専門性を高め、北海道や環境省などと関係性を深めて、監視員活動の幅を広げている。人員が安定しないといった課題はあるが、個々のやりたいことを伸ばす土壌になっている。
 藤このみさん (2011年度~現在)

(上記は、アンケート回答者より13名を抽出し、2018年12月~2019年1月にかけて実施したインタビュー回答より抜粋し作成しました)



監視員活動のアウトカムとは？

監視員自身の意識やライフスタイルの変化について



私たちのセオリー・オブ・チェンジ

利用者による環境保全活動を促進するためにすべきこと

自然の大切さを
理解した上で

直面する
課題・問題を
理解した上で

この場所の
特徴や環境を
理解した上で

訪れる人を育てる



100年後も変わらない大雪山

(監視員活動に携わる方々が行ったワークショップで描いた未来)

そのために、監視員活動を **サステイナブル**なものに

活動の意義・価値を伝える

- ▷自然情報中心から、環境問題への意識付けのための情報発信
- ▷他団体との効果的な連携

関係諸機関と監視員業務について認識の共有・見直しをする

- ▷登山道・散策路整備を、どの程度、正式な業務内容とするのか
- ▷人材の定着も見込んだ予算措置
- ▷経験や技術のある監視員の専門性に値するキャリアステップ

情報の蓄積や共有を強化する

- ▷データを本にした気づき・学びを事業改善に活用する癖をつける
- ▷収集・管理しているデータを質的にも向上させ、研究者や諸機関での活用をめざす



大雪山自然学校では、環境保全を通して人材育成を行う
大雪山環境保全プログラムを実施しています。

環境保全活動を通じて、現場の技術や考え方を身につけた
観光・地域づくりを支える人材が育ちます。
そうした人材が地元の企業や団体に就職し、社業発展、
地域振興に貢献していくことが期待できます。

寄付でつなく、大雪の恵み



パートナーシップ企業・ボランティア・ご寄付、随時募集しております。

利用者による環境保全の仕組みづくり



特例認定NPO法人大雪山自然学校
〒071-1404
北海道上川郡東川町西4号北46番地
TEL/FAX: 0166-82-6500
desk@daisetsu.or.jp
<https://www.daisetsu-donation.com/>

本レポートは、CSOネットワークが実施する
『伴走評価エキスパート育成事業』
(日本財団助成事業)の一環として行った、
大雪山自然学校の発展的評価事例報告書の
一部として作成しました。

一般財団法人CSOネットワーク
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18アパビル5階
TEL: 03-3202-8188 FAX: 03-6233-9560
info@csonj.org <https://www.csonj.org>

【参考1】成果物：評価レポート (ページ4)

最終アウトカムの
共有

監視員活動に
関する提案などの
まとめ

【参考2】監視員活動のアウトプット（1）

長靴利用者

2018 貸出件数は4,423件、総額は約1,326,900円。
2017貸出件数は6,018件、総額は約1,805,500円。
2016貸出件数は4,082件、総額は約1,224,600円。
2015 利用料金を200円から300円に変更。
貸出件数は5,214件、総額は約1,564,200円。

☆ 6月と10月が繁忙期（利用者が最も多い）
・収入額も大きい。
・7月前半の利用と9月後半の利用が多くなると、
全体の利用数や収入も増加する。

☆ その年の降雪量によってレンタル代は上下する。

レンタル長靴代	(円)		
	2016年	2017年	2018年
6月前半	338,400	263,700	411,600
6月後半	265,800	545,400	479,100
7月前半	49,200	208,200	118,500
7月後半	46,500	46,500	38,100
8月前半	16,200	22,800	38,100
8月後半	34,500	30,900	47,100
9月前半	38,400	25,800	4,800
9月後半	62,700	102,300	34,500
10月前半	252,300	389,100	37,800
10月後半	120,600	170,800	117,300
計	1,224,600	1,805,500	1,326,900

出典：自然保護対策事業委託業務報告書

【参考2】監視員活動のアウトプット（2）

携帯トイレ購入者

- 2018年：販売総額は2017年度に比べ約2倍、それ以前の約4倍。
- 2017年：レクチャーや巡回中に、排泄に関するマナーと携帯トイレ使用の案内を行いその普及に努めた。
また、「山のトイレを考える会」と連携し、新たな啓発看板の掲示やレクチャーに携帯トイレに関する内容を盛り込み普及に努めた。
- 2016年：販売総額は約55,000円。旭岳ロープウェイ姿見駅舎内案内カウンターにおける販売＋旭岳ロープウェイ姿見駅舎内売店における販売。レクチャーや巡回中に、排泄に関するマナーと携帯トイレ使用の案内を行いその普及に努めた。
- 2015年：販売総額は約50,000円であった。

販売数	2013年		2014年		2015年		2016年		2017年		2018年	
	個数	売上	個数	売上								
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	2	1,000	0	0	1	500	3	1,500	0	0	9	4,500
7月	24	12,000	27	13,500	19	9,500	47	23,500	97	48,500	171	85,500
8月	6	3,000	18	9,000	39	19,500	23	11,500	69	34,500	200	100,500
9月	23	11,500	23	11,500	41	20,500	37	18,500	60	30,000	100	50,000
10月	6	3,000	2	1,000	0	0	0	0	5	2,500	11	5,500
計	61	30,500	70	35,000	100	50,000	110	55,000	231	115,500	491	245,500

出典：自然保護対策事業委託業務報告書

【参考2】監視員活動のアウトプット（3）

旭岳協力金

旭岳ロープウェイ姿見駅舎内に協力金箱を設置し管理、金額の集計を行っている。
 ※2013年度から2015年度は月ごとの集計。2016年度以降は半月ごとの集計。



- 2013年度に比べて、2018年度は約半減。2017年度に増加があるが、減少傾向。
- 7月と9月に協力金が高い。



旭岳協力金 (円)						
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
6月前半				34,588	23,173	15,572
6月後半	215,717	211,836	148,001	67,658	70,415	81,517
7月前半				115,874	168,533	106,044
7月後半	391,486	227,598	253,002	122,389	163,255	134,956
8月前半				132,718	172,847	96,225
8月後半	383,947	351,838	188,623	71,547	102,421	87,539
9月前半				82,591	97,501	39,078
9月後半	416,541	439,508	285,511	156,972	237,250	163,612
10月前半				74,596	118,886	95,072
10月後半	297,717	179,425	107,362	18,367	46,543	58,391
計	1,705,408	1,610,205	982,499	877,300	1,200,824	878,006

出典：自然保護対策事業委託業務報告書

【参考2】監視員活動のアウトプット（4）

情報発信について

<ネイチャーレター>

発行回数 週1回「旭岳・天人峡ネイチャーレター」☆回数や期間は変化なし。多言語対応を推進。

2018年度：【発行回数 = 20回】【発行期間 = 6月8日～10月26日】

2017年度：【発行回数 = 21回】【発行期間 = 6月6日～10月24日】

※英語版の作成や、インターネット上での配信も7年目。韓国語版、中国語、タイ語、台湾語版、ロシア語版にインドネシア語版も加え作成。

2016年度：【発行回数 = 21回】【発行期間 = 6月7日～10月25日】

※英語版の作成や、インターネット上での配信も6年目。韓国語版、中国語、タイ語、台湾語版に加えロシア語も作成。

2015年度：【発行回数 = 22回】【発行期間 = 6月2日～10月27日】

※英語版の作成や、インターネット上での配信も5年目。韓国語版、中国語、タイ語、台湾語版を作成した。

<SNSやブログ> URL <http://blog.goo.ne.jp/2291yamaiku> ※閲覧数の記載はなし

☆期間に1週間前後の違い。回数は期間と関係あり。

2018年度：【ブログ更新回数 = 153回】【ブログ更新期間 = 6月1日～10月31日】

大雪山自然学校のブログで毎日の天候・気温や高山植物の見頃情報など、利用者が楽しめる写真や訪れる際の判断基準となる情報を発信。旭岳ビジターセンターのサイトや、バスやロープウェイに関するリンクを貼り、より利用者が活用しやすいようにした。加えて今年度からFacebookのページを作り、より広い情報発信をめざした。

2017年度：【更新回数 = 162回】【更新期間 = 6月1日～10月31日】

2016年度：【更新回数 = 158回】【更新期間 = 5月28日～10月31日】

2015年度：【更新回数 = 171回】【更新期間 = 5月23日～10月31日】

出典：自然保護対策事業委託業務報告書

【参考3】監視員活動のアンケート・インタビュー結果（1）

今回実施した大雪山自然学校監視員経験者（一部スタッフ経験者も含む）で特筆すべき点としては、

1) 「監視員活動の貢献」では、[清掃活動]に回答者が30人中25人が最高点をつけた。以下、
[登山者・散策者へのマナー普及]16/[登山道・散策路の整備]15/[登山者・散策者の安全確保]14/[植生の保護
(盗掘の防止、外来種の防除含む)]13

2) 環境の変化に影響のあった監視員の具体的な活動では、[レンタル長靴]、[駅舎でのカウンター業務]、[ロープ張り]、[巡回]が最高点の回答者が多い（13-16名）。[ネイチャーレターの発行]、[ブログ・SNSでの発信]、[協力金の呼びかけ]、[ボランティア・インターンの受入]（6-9名）にはそれほど多くの最高点が集まらなかった。

→情報発信は監視員活動の特徴を最大限生かしているもの。（ただし、活かされていない）

→今までのやり方を変えないといけないと感じている（外国人）

3) 監視員活動による効果では、[旭岳の自然環境に関する情報の蓄積]（18）、[ボランティア・インターン活動の機会提供]（17）が最高点が多く、その他（[登山道整備に関する技術の向上]、[来訪者（観光客）の意識の向上]、[雇用機会の提供]、[来訪者（観光客）の増加]）などは、実感値が低いせいか、最高点の人はさほど多くなかった。

4) 監視員活動による大雪山を取り巻く環境の変化への貢献では、[大雪山の環境保全]（20）の最高点数が他の2倍で圧倒的に多い。

【参考3】監視員活動のアンケート・インタビュー結果（2）

5) 回答者（監視員経験者）自身の変化に関しては、最高点5点の平均点で、

[大雪山がより好きになった] 4.72

[動植物や昆虫についての知識が増えた] 4.66

[自然を大切にすることが強くなった] 4.48

が平均点が高かった。監視員に関する他の質問項目に対するものも含め、以下のようなコメントが見られる。これらの意識をベースに、監視員経験者のネットワークを強化することを検討できるか。

[雇用機会の提供]

○東川に移住するきっかけ。期間雇用だからこそたくさんの人にかかわってもらえる。

[スタッフのキャリアステップの提供]

△冬期間があるのでキャリアステップは思うようには進まない。

△人材が定着しないため、レベルの高い業務ができず、キャリアステップに繋がる余裕もない。

[（監視員経験者）自身の変化]

○毎年変わる環境に対する活動（だという意識が生まれた）

○失われていくもの、自然のサイクル、ちょっとしたことでなくなる自然を感じた。

○適切な利用と保全がどういうものかを考え、それに必要なものと、不足しているものが見えるようになった。

○思考が変わった「自然と共生するという基礎」

【参考3】監視員活動のアンケート・インタビュー結果（3）

旭岳自然保護監視員ってどんな人？

（インタビュー回答より抜粋して作成）

現場の生きた情報を得、ダイレクトに体感したことを伝える人

高野克也さん（札幌まるやま自然学校プログラムディレクター）

活動時期：2009年5月～2011年11月

○高野さんにとっての監視員活動

活動する中で失われていくもの、自然のサイクル、ちょっとしたことでなくなる自然を感じることができた活動。現場リアルを伝えることができるのは監視員しかいない。監視員活動で得た感覚やスキル、事業運営のノウハウは、確実に今の仕事につながっている。

“適切な”利用と保全がどういうものか、それに必要なもの/不足しているものを考える人

藤このみさん

活動時期：2011年5月～2018年11月（現在まで）

○藤さんにとっての監視員活動

監視員は、大雪山自然学校を「広げる役割」がある。登山道整備などの専門性を高め、北海道や環境省など関係性を深めて、監視員活動の幅を広げている。人員が安定しないといった課題はあるが、個々のやりたいことを伸ばす土壌になっている。

【参考3】監視員活動のアンケート・インタビュー結果（4）

旭岳自然保護監視員ってどんな人？

（インタビュー回答より抜粋して作成）

そこにいることで、利用者の「大切な場所」という気持ちを高める人

高橋可翔さん（東川エコツーリズム推進協議会職員）

活動時期：2016年5月～2017年11月

○高橋さんにとっての監視員活動

山などは好きだったが、特に植物に詳しいわけではない自分の人生が変わった。高山植物の勉強や登山道を歩くことを仕事にできるのは幸せだったし、他のガイドや行政の人たちとつながりができ、次のステップにつながる場所。

山が大好きで、それぞれ個々の能力を最大限に伸ばし、楽しく働いている人

山口ちえさん（東川町海外誘客推進本部コーディネーター）

活動時期：2006年8月～2013年4月

○山口さんにとっての監視員活動

自然を“守る”“保護する”ではなく、「自然と共生するという基礎」を感じられる活動。旬の情報を発信するネイチャーレターや監視員活動日誌、定点観察など豊富な情報と個々に蓄積した経験を活かし、やりたいこと＝活動に。

【参考4】DEパート2活動記録（時系列-1）

●略称一覧：自然学校（大雪山自然学校）、中谷（中谷美南子）、今田（今田克司）、佐藤（佐藤綾乃）、中西（中西希恵）、落合（落合千華）、河合（河合将生）

●旭岳評価チーム編成：中谷（-2018.6まで）、今田、佐藤、中西、落合（-2018.6まで）、河合（2018.9-より）
 自然学校側対応メンバー：荒井一洋（代表理事）、木村恵巳（理事・スタッフ）、小沼秀樹（理事・スタッフ）、その他

日程	活動内容	参加者	自然学校との活動	旭岳チーム内の活動
2018年 4月27日	【1.評価可能性の確認】 ●自然学校へのヒアリングの実施	自然学校メンバー、 中谷、佐藤	○	
5月25日	●評価事例チーム合同ミーティング	評価事例チーム		○ 合同
5月末 ～6月1日	【2.評価可能性からサクセスイメージまで】 ●評価の枠組み案の策定、各自の作業と旭岳チームミーティング、視点と関係者、領域、内容)の作成	今田、中谷、佐藤、 中西、落合		○
6月13日	●評価の枠組みの特定に向けた団体との調整 ・自然学校へのチーム訪問（第1回）とワークショップ（参加者：事務局、キトキト事業、監視員事業）の実施 ・各事業の内容把握（対象者、関係者、競合、人員、予算）、個人的な所感の共有、イノベーションを支える仕組みの検討、監視員メンバーからのヒアリング、振り返りと今後のアイデア（事業の軸の整理）	自然学校メンバー、 今田、中谷、佐藤、 落合	○	

【参考4】DEパート2活動記録（時系列-2）

日程	活動内容	参加者	自然学校との活動	旭岳チーム内の活動
6月13日以降	●訪問&ワークショップのレポート作成	今田、中谷、佐藤、中西、落合		○
7月	※第2回訪問を予定していたが自然学校側の都合で、延期			
8月31日～9月1日	●自然学校へのチーム訪問（第2回）とグループインタビューの実施 ・新しいシステムマップ、利用者（象限1：地域内で自然体験あり）の聞き取りについて ・グループインタビュー／インタビュー／アンケート項目の確認作業 ・グループインタビューの実施（大雪山自然学校のあるべき姿、成果、課題等）	自然学校メンバー、今田、佐藤、中西	○	
9月4日～10日	【3.評価目的・評価設問の策定に向けて】 ●今田東川町訪問 ・荒井代表インタビュー・町の人々の声を拾う	自然学校メンバー、今田	○	○
9月14日	●旭岳チームミーティング「自然学校の新機軸」「利用者の再定義（山の恵みを受けている全員）」について意見交換、「Whatの整理」 ・「What 旭岳」（自然学校の事業に関連しそうな事項を共有するメッセンジャースレッド）をスタート	今田、佐藤、中西、河合 （※以降、旭岳チーム）		○
9月後半	●評価目的・評価設問の策定 ・9/19版、22版、28版として案1～案3を作成。	旭岳チーム	○	○
9月23日	●評価目的・評価設問について、9/22版を提案。意見徴収	自然学校メンバー、理事、佐藤	○	

【参考4】DEパート2活動記録（時系列-3）

日程	活動内容	参加者	自然学校との活動	旭岳チーム内の活動
9月25日	●評価事例チーム合同ミーティング「進捗共有」	評価事例チーム		○ 合同
10月5日	●評価目的・評価設問の策定 ・10/5版を作成。評価目的を以下とし、評価設問を「評価設問」と「学びの設問」に分類。 大雪山自然学校が「100年後も変わらない、大雪山のためにできること」を明確にするために、登山者・自然体験プログラム等参加者以外を含めた、地域住民の広く多様な層からの支持を得られる組織へと成長するために、これまでの活動による効果・効用・期待値や、すでに持つ要素や強みを明らかにする。	旭岳チーム		○
10月8日	●旭岳チームミーティング「評価目的と評価設問」案に対する自然学校からのフィードバックを受けて再検討、収集すべき基礎データについて自然学校からのリクエストなど	自然学校メンバー、佐藤、河合	○	
10月11日 ～15日	●今田東川町滞在 ・ひがしがわ株主総会への参加 ・関係者へのインタビューなど	今田		○
10月15日	【4.監視員活動を評価対象に】 ●旭岳チームミーティング「今田東川町滞在時の共有」「次年度について」「8月訪問時のインタビュー結果のまとめと自然学校メンバーへのフィードバック」「評価設問の絞り込み」※監視員活動に評価設問を絞り込む方向に「絞り込みを踏まえた評価計画の策定」「データ収集とスケジュール」「アンケートとインタビューの実施」「役割分担」	旭岳チーム		○

【参考4】DEパート2活動記録（時系列－4）

日程	活動内容	参加者	自然学校との活動	旭岳チーム内の活動
10月25日	●DE2期生研修でのケイトとのセッション ※旭岳チームの実践事例報告とケイトからのコメントを得る	旭岳チーム		○
10月26日	●自然学校メンバーと、評価対象（監視員活動）の確認。現在の監視員事業に関する関係者マップづくりワークの実施。	自然学校メンバー、佐藤	○	
10月末	●10/25ケイトとのセッションをもとに、評価目的・評価設問の再修正、最終版の確定	旭岳チーム		○
11月15日 ～16日	●自然学校への訪問 ・ 監視員活動のセオリーオブチェンジWSの実施、セオリーオブチェンジの作成 ・ 自然学校理事との話し合い「理事の所属や活動、自然学校との関わり」「DE評価の経過報告と成果物への期待」	自然学校メンバー、理事、今田、佐藤	○	
11月16日	●旭岳チームミーティング	旭岳チーム		○
12月	【5.データ収集・分析】 ●現職及び元監視員のリストアップ、インタビュー対象者の選定	自然学校メンバー	○	
12月11日	●自然学校メンバーとのミーティング	自然学校メンバー、今田、佐藤	○	
12月18日	●データ収集 ・ 旭岳チームミーティング「自然学校の現状共有」「11/15WS等の報告」「12/22～23の訪問の計画（インタビュー＆アンケート分析、自然学校とのミーティング）」「成果物について」	旭岳チーム		○

【参考4】DEパート2活動記録（時系列-5）

日程	活動内容	参加者	自然学校との活動	旭岳チーム内の活動
12月18日	●現職及び元監視員を対象にした「旭岳自然保護監視員活動に関するヒアリング」の協力依頼とアンケート項目の検討	旭岳チーム		○
12月～2019年1月	●現職及び元監視員を対象にアンケートを実施（googleフォーム・URLを配信：対象61人）	自然学校メンバー、旭岳チーム	○	
同上	●現職及び元監視員を対象にインタビューを実施	自然学校メンバー、旭岳チーム	○	
12月22日～23日	●自然学校へのチーム訪問（第3回）とインタビュー、ミーティングの実施	自然学校メンバー、旭岳チーム	○	
同上	●データ分析と結果の導出 自然学校メンバーと成果物アウトラインや概要のディスカッション	自然学校メンバー、旭岳チーム	○	
2019年1月	【6.評価まとめ・報告】 ●アンケート・インタビュー結果まとめ	旭岳チーム		○
同上	●基礎データ集め&整理、監視員事業アウトプット整理、理事会向け報告書作成	旭岳チーム		○
1月18日	●旭岳チームミーティング	旭岳チーム		○
2月4日	●自然学校へのチーム訪問（第4回）と評価の報告 大雪山自然学校・理事会での報告と意見交換	自然学校メンバー、旭岳チーム	○	
2月7日	●旭岳チームミーティング「理事会向け資料のブラッシュアップ」「外向け評価レポート」「旭岳DEケースストーリーパート2」作成について	旭岳チーム		○

【参考4】DEパート2活動記録（時系列－6）

日程	活動内容	参加者	自然学校との活動	旭岳チーム内の活動
2月～6月	●評価結果の活用 外部向け「評価レポート」の作成	今田、佐藤		○
2月～6月	●インタビュー結果まとめなど、資料のブラッシュアップ、旭岳DEケースストーリーパート2作成	旭岳チーム		○
3月8日	●DE2期生研修でのDE実践事例報告	今田、佐藤、河合		○
6月4日	●自然学校理事会「DE経過報告と外向け評価レポートについての意見交換、監視員事業のセオリーオブチェンジについて」	自然学校メンバー、理事、佐藤	○	
6月	●成果物仕上げ ・「評価レポート」 ・「旭岳DEケースストーリーパート2」	旭岳チーム	○	

事業名： 「伴走評価エキスパート育成のための研修事業」

実施団体： 一般財団法人CSOネットワーク
〒169-0051
新宿区西早稲田2-3-18
アバコビル5階
Tel: 03-3202-8188
Fax: 03-6233-9560
www.csonj.org

助成： 日本財団

協力団体： 日本ファンドレイジング協会、日本NPOセンター